

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	663-4 観光振興事業(語り部の育成)	会計	01	一般会計
		款	07	商工費
		項	01	商工費
		目	03	観光費
基本 施策	44 資源とともなしの心を活かし、観光を振興する	細目	336	観光振興経費
		細々目	01	観光振興経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部署	コード	191400		担当者 氏名
	名称	産業建設部商工労働観光課		
			連絡先	43 - 2309 (内線)

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	伊賀上野語り部の会	※対象件数
成果(どうする)	語り部のレベルアップがはかれ、観光客の増加につながる。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成	年度
終了年度	平成	年度
H21 事業 内容	①語り部研修のための支援を行った。	
	○平成21年6月4日：三重観光ボランティアガイド連絡協議会総会及び研修会参加 ○平成21年11月9日：三重観光ボランティアガイド連絡協議会平成21年度北中勢・伊賀地区交流研修会参加 ○平成22年3月30日：研修交流会(滋賀県草津市) ○傷害保険継続	
社会情勢 の変化等	○より柔軟な語り部活動に向けて、独立したNPO法人を目指し勉強している。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
語り部の視察研修			目標	2	目標	2
			実績	3	実績	3
			目標		目標	
			実績		実績	

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
語り部の登録者数		観光振興計画に基づき、H23に登録者数を50人にするため、段階的に目標を設定する。	人	目標	44	目標	46
				実績	45	実績	44
語り部案内件数		前年度比5%増	件	目標	135	目標	165
				実績	157	実績	149

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)	
直接事業費計(A)	145		4,256		102		602	
Aの 財源 内訳			4,128				0	
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他	0		0				0	
一般財源	145		128		102		602	
事業投入人員費(B)	0.1人	720	0.5人	3,600	0.1人	720	0.1人	720
フルコスト(A)+(B)		865		7,866		822		1,322

事務事業の評価(Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対応し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	○
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	○	
観光振興を積極的に取組むことにより集客交流が促進され、それに伴い経済活動や地域の活性化が見込まれるため、伊賀市が観光都市として進むことへの市民ニーズが高い。また、市民一人ひとりがおもてなしの心を醸成し、語り部もしくは観光大使となり、行政や観光事業者のみならず市全体で観光振興に取り組んでいくことが、今後の観光振興には不可欠である。		
財政状況を考慮し、事業を休止した場合は、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
地域産業や地域経済が疲弊している状況においては、観光産業は成長性の高い産業であり、また波及効果の範囲が広い産業であるため従来にもまして重要な役割を担い、経済活性化への切り札になりうるものと考えられ、市民生活にプラスの影響を与えることができる。		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
有効性	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
有効性	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。 【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
達成度	予算の繰越の有無	
達成度	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率的性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】 受益者負担を求められることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	語り部の案内があることを積極的にPRし、案内件数を増やす。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる
	【詳細】 厳しい経済情勢の中、観光客入込客数が減少傾向にあるのに伴い、語り部の要請数も減少した。語り部養成講座には22名が受講し、そのうち11名が新たに語り部として登録したが、これまで登録していた方が高齢等の理由で辞められたので総数に変化はあまりない。一方、伊賀学検定受験者数は増えており、地域への関心の高まりは感じられる。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	松本 浩典
事業の方向性	【方向性】 現状維持
	【理由】 * 市民一人ひとりがおもてなしの心を醸成し、語り部もしくは観光大使となり、行政や観光事業者のみならず市全体で観光振興に取り組んでいく。
現時点における課題、その他	* 語り部の高齢化、固定化、後継者不足
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	引き続き、語り部養成講座を開催し、新たな人材育成を行うとともに、今年度において伊賀学検定受講者の活用検討を行う。